

2010-2011

WEEKLY REPORT

ROTARY CLUB OF NAGOYA MEINAN

URL <http://www.meinan-rotary.com> E-mail info@meinan-rotary.com

名古屋名南ロータリークラブ

■承認/1991年3月8日 ■例会日/火曜日・PM6:30 ■例会場/名古屋マリオットアソシアホテル
■会長/太田 敦士 ■幹事/吉木 邦男 ■会報・雑誌・広報委員長/三島多恵子
■事務局/〒450-6002 名古屋市中村区名駅1丁目1番4号 名古屋マリオットアソシアホテル 2202号
TEL.052-586-2043 FAX.052-586-2054



地域を育み、大地をつなぐ

2010-2011年度RI会長 レイ・クリンギンミス

第923回

2010年9月14日(火) 晴 第10回

～新世代のための月間～

斉唱 R-O-T-A-R-Y
出席 会員65名(出席率算入人数61名)
出席47名 出席率77.05%
前々回補填率96.72%(8月31日分)
ゲスト 地区ロータリーアクト委員長
高須 洋志さん

9月の結婚記念日

16日 出田真太郎さん 30日 吉木 邦男さん

副会長あいさつ

副会長 田中 一雄さん

皆さん、こんばんは。地区ロータリーアクト委員長の高須さん、本日はありがとうございます。

今日、ロータリーの仲間である安藤鉄一さんの会社へ行って参りました。安藤さんは元気で今どのような治療をしてみえるかという、5週に1回3泊4日で癌センターで点滴をやってみえるようです。

その後、会社へ帰ると丁度テレビで菅さんの大勝を報道していました。私個人的には、小沢さんにやってもらってもよろしいかなという気もしておりましたが、世の中そんな上手くはいかないもので、一般的にはお金の問題がやはり致命傷だったということでしょう。

演説の中で2人とも「私には夢がある」ということを言ってみえました。私も夢を持っております。実はずっと病気をしまして、最近やっと元気になってきましたが、先日あまりにも呼吸が苦しいので呼吸器科へ行ってきたところ、肺気腫の疑いがあると言われ、また病気が1つ増えてしまいました。しかし、せっかくここで副会長をやらせていただいたのだから、10年先に私が元気だったら、会長に何とか推薦いただけるように、是非それだけお願いしてあいさつに代えたいと思います。



幹事報告

幹事 吉木 邦男さん

1. 病気休養中で休会届けが出ております小山さんのところに、9月10日金曜日、会長とお見舞いに行ってきた。もうすでにリハビリを兼ねて午前中は会社でお仕事をしているということで、事務所にお伺いしました。本当に気が丈夫で、外から見る限りほとんどダメージを感じませんでした。お話を聞きますと、相当な手術だったようで大変な修羅場をくぐってカムバックしたようです。できればなるべく早く皆さんの顔を見たいと思っておられると聞いております。このまま順調に回復なされれば10月頭もしくは、9月の終わり位から例会の方にお顔をを出していただけるとお伺いをして安心して帰ってきました。
2. ロータリーカードを利用させていただきますと、利用金額に応じて0.3%が財団への寄付になるもしくは、年会費が財団への寄付になります。是非ロータリアンとしてこのカードを使っていきたいという方は事務局に案内用紙がございますので、ご連絡下さい。

9月7日(火) 年代別席フリートーキング例会報告

■テーマ『例会を楽しくするために』

<会員の皆さまよりの意見>

- ・フリートーキング(くじ・年齢別など)の機会を増やす。
- ・場所を変えてお酒を飲みながら懇親を深める。またそのような例会は喫煙テーブルがあってもよいのではないか。
- ・何でも言いたいことを発言するが貶めないようにする。
- ・またテーマはあってもなくてもよいが、5人以下の集まりがよい。
- ・例会開始時にストレッチなど行う。
- ・サイン例会より他クラブ例会への出席は参考になることが多い。
- ・同好会を充実させる。(きき酒・乗馬等)
- ・桃栗会の開催など新入会員の研修を行う。

ニコボックス

- ◆ 本日卓話をさせていただきます。
地区ロータリーアクト委員長 高須 洋志さん
- ◆ 地区ロータリーアクト委員長高須洋志さんをお迎えして

第925回例会(9月28日)のご案内

クラブフォーラム「会長賞に向けて」

白銀 義昭さん 江上 隆夫さん 川村 繁生さん
 伊藤 圭一さん 朝比美和子さん 吉木 邦男さん
 太田 敦士さん 安藤 修さん 野々村憲吾さん
 江村 雅夫さん 山本 郁矢さん 中村 勝さん
 長尾 浅吉さん 牧野 好弘さん 森田敏二三さん
 入谷 直行さん 加藤 宜之さん 三浦 和人さん
 本多 利郎さん 山崎 淳さん 犬飼りさ枝さん
 浅井 浩さん 白藤 憲雄さん 久米 伸治さん
 武藤 正行さん 小野 雅之さん 三島多恵子さん
 木下 福郎さん 鈴木 享さん 中西 芳子さん
 山本 誠一さん 新原 尚さん 田中 一雄さん
 東山 直史さん 猪村 美之さん 鈴井 一博さん
 杉山 隆秀さん 坂本 晃さん 三浦 隆さん
 坂田 信子さん 水野 俊男さん 出田真太郎さん
 黒田 康正さん 児島 徳和さん

◆ 守山RCの長谷さんから頼まれました友人のお嬢さんのピアノリサイタルのご案内です。それと私の写真展のご案内をします。見てやって下さい。

林 隆二さん

本日合計 57,000 円 累計 461,000 円

委員会報告

■社会奉仕委員会 委員長 児島 徳和さん

社会奉仕委員会より今年度RI会長賞を獲得する為に必須の行事となります3施設合同のフットサル練習試合のご協力お願いでございます。皆さんにお願いをしたいのは、焼そば、お好み焼き、フランクフルト等を作ったりということで、是非皆様の愛情を味に入れていただきまして、ご協力をいただけたらと思っております。

併せて、通常のニコボックスとは違うもう1つ別な部分の寄付が会長賞の中では必須となっておりますので、来週、再来週の例会時に箱を用意させていただきますので、是非ご寄付を宜しくお願い致します。

■米山記念奨学委員会 委員長 犬飼りさ枝さん

米山月間は来月でまだ少し早いのですが、1人でも多くの皆様に米山の為の寄付をお願いしたくて、第1回目の寄付のお願いを入れさせていただきました。

来月は奨学生から学友になられた中国のとても素敵な女性に卓話をお願いしてありますので、皆様の沢山の寄付を期待しております。宜しくお願い致します。

同好会報告

■写真同好会 部会長 林 隆二さん

9月28日～10月3日名古屋市民ギャラリーにおいて展示会をやりますので、是非お時間を作って来て頂きたいと思っております。

また、ピアノリサイタルのご案内も入れさせていただきました。これは守山RCの長谷さんの友人の娘さんのリサイタルでございます。是非ご参加いただきますようお願い致します。

新世代委員会担当卓話

■地区ローターアクト委員長 高須 洋志さん テーマ「新世代奉仕とローターアクト活動」

もともとは4大奉仕と言われておりましたが、今年の規定審議会では、賛成反対が拮抗している状態で可決をされました。元々ロータリーの綱領を見ると4つになっており、クラブ奉仕、職業奉仕、国際奉仕、社会奉仕とリンクして考えることができました。そこへ5つ目が入ってきたものから、どうやって整合性を取るのかという問題がありますし、違和感を持っておられるロータリアンが多いと思います。RIの最近の傾向は、組織に関して言うと、会員を増やすことと、RI活動資金のために頑張ってくださいという話が多いです。しかし、本来ロータリーというのは、クラブが基本で、RIが統括するというのは本来の姿ではないというのが、我々の先輩ロータリアンの主流の考え方です。したがって、RIがこのような方針を出してくる度に、異論を唱えて本質論で対抗しているのが、日本のRI理事です。



4大奉仕と言われているものは、自分個人からスタートして、職場、社会、国際という風に空間的に広がっていくわけですが、新世代育成というものは、空間の広がりではなくて、時間軸で、将来に対する対応になってきます。そうしますと、現在国際奉仕や社会奉仕に入っている活動も、新世代という観点から見ると、取り込まれてきます。4大奉仕で理解しやすかったものが5大奉仕になって、組織との整合性が取りにくくなりました。次の世代を育てるのが重要であるということ自体は否定されなくても、そのあたりの議論がきちんと整理されていない形で降りて参りました。規定審議会を通ったということは、手続要覧には5大奉仕とはっきり書かれてくると思います。各地区はそれに倣うよう言われております。ただ、倣わなければいけないかという必ずしもそうではなくて、基本になるのは地区であり、それぞれの単位の会でありますので、その観点からいくと、地区はこれをどのように整理するのは来年以降の課題であろうと思います。

ロータリーの活動は、人道的プログラムと新世代の育成に分けて考えられると思います。人道的プログラムとは、貧困・飢餓救済、識字率の向上、水・保健・薬物乱用・エイズへの理解、ポリオプラスで、現在目の前にある危機的状況や手を差しのべるべき対象に活動を持っていくということです。特徴としては、目で見て数字で把握できるという活動です。一方、新世代の育成というのは、その活動をしたことによってどのような効果が現れたかというのが実感しにくいという活動です。したがって結果の見えないものになぜこれだけのお金をかけるのかという異論が出てきます。経営者の特質みたいなもので、費用対効果という見方で判定をしがちですが、この費用対効果と奉仕というのは考え方としては実は対極にあります。どんな結果を生むかわからないことに対して、費用と時間をかけ、将来何らかの意

味を持ってくるといふことに期待をかけるということですから、当然企業活動とは違った視点で考えなければならぬ問題ですし、本当に効果があったかどうか実は分からないわけでありまして。その点のご理解をいただきたいと思ひます。

新世代奉仕について、マニュアルがあります。「奉仕の第5部門である新世代奉仕は、指導力養成活動、社会奉仕プロジェクト及び国際奉仕プロジェクトへの参加、世界平和と異文化の理解を深め育む交換プログラムを通じて、青少年並びに若者によって、好ましい変化をもたらせる事を認識するものである」具体的には、「指導力養成活動」に該当するものはRYLAであります。「社会奉仕プロジェクト及び国際奉仕プロジェクトへの参加」というのは、インターアクトやローターアクトの活動であります。「世界平和と異文化の理解」は、青少年交換という形で1年間海外へ高校生を送り出しておられまして、その活動を通しての異文化理解をしております。つまり、第5奉仕だと言っておりますが、実際には現在もそれに該当する活動をしております。名南RCは熱田ローターアクトを提唱していただいておりますが、これは新世代の中の具体的な活動の1つとして推奨されている活動ですから、これにご理解をいただくということが、RIや地区の強調する活動に積極的に参加することだと思ひます。

熱田ローターアクトクラブの今年の会長の名前をご存知でしょうか？小岩大騎さんです。ご関心が無いとなかなか分からないと思ひますが、熱田ローターアクトクラブはクラブ計画書を作っておりまして、月に2回活動しており、提唱しているクラブの方はこの例会に是非出席をしていただきたいと思ひております。また、ローターアクトにも定款というのがありまして、ローターアクトの目標は「専門技術及び指導能力を開発すること」「他人の権利を尊重する観念を養い、あらゆる有用な職業の道徳的水準及び品位を保持し推進すること」「若い人々に地域社会を始め世界・社会のニーズ及び懸念事項を提起する機会を提供すること」「提唱ロータリークラブと協力して活動に当たる機会を提供すること」「ロータリーにおける将来の会員として若い人々の意欲を喚起すること」です。

この中で1番ご理解いただきたいのが、第3条の提唱者でありまして、「本ローターアクトクラブの提唱者は、名古屋南RC、名古屋東南RC、名古屋瑞穂RC、名古屋名南RCである。提唱者は最小限5名のロータリアンによる委員会により、本ローターアクトクラブを指導し、本ローターアクトクラブの後見人としての責務を負うものとする。提唱ロータリークラブが積極的に直接参加し続けるか否かによって本ローターアクトクラブの成功発展が決まることになる。」とあります。これは元々ローターアクトクラブという組織は、ロータリークラブが提唱して組織作りをし、RIに認証してもらってできた組織であるということなんです。したがってこの組織が上手く機能し、発展するかどうかはロータリークラブにかかっているということをお知らせし、定款の中で言っているわけでありまして、従いまして、育成指導する責任があるわけなんです。そんな面倒臭い事はどうしても嫌ならば、支援をしない方が良くと思ひております。ただせっかく作ったアクトクラブを、次の世代

を育てる活動として維持していこうとすれば、ロータリークラブとして積極的に関与していただくことが大事だと申し上げておきたいと思ひます。これが守られているかどうかは、アクトクラブの議事録が委員長のところへ来ているかどうかというのがあります。また、アクトの例会に4クラブが参加することになっており、どなたが参加するかという発表をアクトは毎回やっております。欠席をされると大変目立つという状態で例会が進んでおりますので、年に1回くらいのことですので是非参加してあげてください。

日本でRIの会長は過去に2人出ております。最初は東京RCの東ヶ崎潔さん、もう1人が大分の中津RC向笠廣次さんです。そして、2012-2013年の会長が日本から出る予定になっており、RI理事の田中作次さんが会長になられます。これがなぜ重要かといいますと、ロータリーに非常に危機感を持っておられる方がおられます。どういう批判かといいますと、RIの行っている方向がどうも日本の伝統的なロータリアンの感覚から外れているのではという議論です。そこにこの田中RI会長が実現した時にどんな方針を出されるかという事に、日本におけるロータリーの将来がかかっているかもしれないということなんです。

1986年世界のロータリアン121万人、日本のロータリアン13万人弱だったのが、現在世界は123万人、日本は9万1500人くらいです。なぜ日本だけ減っているのかと言われてますが、これは景気だけの問題ではなく、ロータリー活動にあまり魅力やステータスを感じないという方が増えてきたということです。今日は問題提起だけにしておきますが、今のRIの言っていることが全て正しいという風に受け取る必要は無いのでありまして、各クラブが本来のロータリーのあり方というのを考えて発信していく事が大事だろうと思ひます。

9月7日にクラブ新世代委員長さんに集まっていたきまして、会議をやりました。そこでは実際に活動に携わった18歳～30歳までの子供達の実例報告がありました。私が一番関心致しましたのは、私達が時間とお金をかけて送り出した新しい世代の子達が、何を感じ、何を身につけて戻ってきたかということです。具体例で言いますと、青少年交換でスイスへ行った子の話です。彼女は決して考えることが無かったであろう「愛国心」という言葉を使いました。彼女は異国で様々な国から来ている留学生達と話をし、どの子も自分の国の良い所、好きな所をスラスラと言うのに、日本人の私はそれがスラスラと言えなかったし、出てこなかった。これは何故なんだと疑問を持ったと言っております。つまり日本を愛するという気持ちが日本の若者に無いのではないかと、愛国心とは何だと言いました。おそらく彼女は留学という経験をしなければ、そんなことを考えることは決して無かったのではないかと、その彼女がどんな大人になり、何をしてくれるか分かりませんが、その機会を与えたことによって何か日本人の心や若い人達が、世界の観点から物を考えられる一人の大きな人間に育つ大きな可能性を持っていると感じました。従いまして、効果が見えない活動ですが、是非ご支援をいただきたいと思ひます。どうぞ宜しくお願い致します。